

2022年 秋号【特別編集号】 ひまわり会報



生まれ故郷、会津の景色



弊社会長 栗城 博が令和4年10月3日、永眠致しました。
生前のご厚誼に深く感謝申し上げます。

《父、逝く》

父である弊社会長 栗城 博が令和4年10月3日、永眠致しました。9月11日に87歳になっていました。

8月前半から、脊柱管狭窄症からの腰痛を頻繁に訴える様になりました。随分前から痛み止めは欠かさず飲んでいましたが効かない状況に……。いつも通っている整形外科の先生も『様子を見てください』としか言ってもらえず。

お盆前に発注していた【次世代型電動車椅子WILL】が8月25日に納車されたので、26日に私と二人で、自宅から大和駅前へ。そして父が加入しているロータリークラブの例会会場の【北京飯店】へ向けて練習走行を行いました。運転免許を返納してから自分で運転することが無くなっていましたので、久しぶりの自走運転に『いやあ、楽しいなあ～、これなら独りで動き回れるな！』なんて喜んでいました。

8月31日早朝、母から連絡あり、急いで実家に行くと、廊下で父がふさぎ込んでいました。痛みで動けない状態で非常に苦しそうでした。実はこの二日前にも激痛でどうしようもなくなって、救急車で病院に運びましたが鎮痛点滴後、『コロナ禍でもあり痛みだけでは入院はさせられない。自宅で様子を見て』と帰宅命令。その二日後でしたから、本人が『救急車を呼ぶのは止めてくれ。申し訳なくて……。』会社においてある手動の車椅子を持ってきて、どうにか身体を移して、近くの某病院へ。本人も入院を希望していましたが、ここでも門前払い。

私も困り果てて、最後に頼ったのがロータリークラブでお世話になっているK先生に直電して、状況を説明したら、『判った、直ぐに連れて来なさい！』父に『K先生がOKしてくれたから、直ぐに行こう！』本人はとても安心した様子でした。

コロナ禍でありますので、様々難しいことは承知しておりましたが、父の希望に丁寧に寄り添って下さり、入院が出来ることになりました。『痛みが退いて、リハビリして家に戻れるのは一か月位かかりますよ』家に戻れるという言葉にとっても安心しました。

父には『コロナ禍だから、見舞いには来られないよ。携帯OKだから、電話してね！』『うん、分ってる。大丈夫、電話する。』二～三日後、電話で『まだ、痛くてリハビリが出来ないけど、少しは良いかな！食事が口に合わない』なんて愚痴が出ていましたが何も不安はありませんでした。入院して数日後、K先生から電話で来院要請がありました。

『腰の具合を詳しく調べていく上でCTやMRIなど検査したら腎臓と肝臓の機能数値がすこぶる悪い。透析の可能性もあります。貧血もひどいので、輸血の必要もあります。様々合併症を起こすことも考えられます。』心の中で（え、……。輸血？透析？合併症？）何のこと？一通り説明を聴きましたが……

その後特別に面会許可も戴き、会いに行くと嬉しそうに『来たの？』、私曰く『ちょっと、内臓の数値が悪いんだって。食事療法が必要だから、食事は楽しくないよ！入院も少し長引くよ！我慢してね。』父曰く『そうなんだ～、ちっとも美味しくないんだ……。それでいつ帰れるんだ！』私『頑張って早く帰ってきてね！会社のことで相談もあるし、セミナー講師も担当してもらわないと困るからさ！頑張ろうね！』嬉しそうに父『うん、分かった。早く帰って相談に乗るから、お前も頑張れ！』ちゃんとした会話はこれが最期だったように思います。

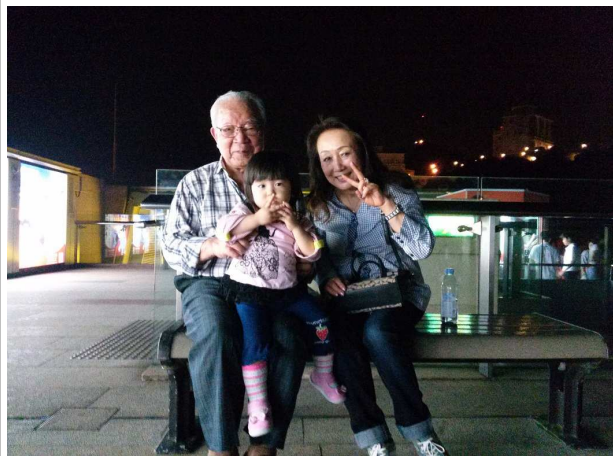
9月28日朝、再び来院要請あり、K先生から『手足の動きがおかしいので調べたら脳出血を発症しています。』30日も来院要請、状況が好転しない。寝たままの状態意識レベルが薄い感じ。10月1日に私の姉二人、兄と兄嫁の4人が特別面会。（私はセミナーの為面会できず……。）薄い意識の中、姉や兄たちが面会に来たことは分かった様子で『健は？』とつぶやいたとのこと。この時点でも私たちは父が亡くなるなんて想像もしていませんでした。

3日朝、どうしても気掛かりなので直接病院に電話をかけて『父の様子はどうですか？』病院スタッフの方は『特段、様子は変わりありませんが、面会に来られても良いように手配しますよ！』とアドバイス。4日に面会に行けるようお願いした。

その後は普通に仕事して、夕方帰宅して食事を済ませ、娘をお風呂に入れて、一息ついた午後9時20分頃、自宅の電話が・・・。

実家の母から『病院に来てほしいと連絡があった。お父さんの呼吸が短い』母を迎えに行き病院へ向かった。途中自然と涙が出た。

午後9時50分ごろ病室へ到着。父の体に心電図と二種類の点滴、酸素投与もされていた。意識レベルがとても低いが左目はかすかに開いていた。看護師さんから『お父さん、分かりますから声を掛けてあげてください！』耳元によって『オヤジ、来たよ！健だよ。病気直して、家に帰ろう！大丈夫だよ。お母さんも一緒に来たよ！安心して！』そうしたら父の左目から涙がこぼれた。ハンカチで目を押さえて涙を拭きとったがそれでも涙が止まらない。私は父が母と私がいることを理解していると確信した。驚きと同時に嬉しかった。そして手を握りつつ、10時26分静かに人生の幕を閉じた。



2016年 社員旅行で香港へ…



私が15歳の時に跡を継ぐと約束してから、大人扱いしてくれた。厳しい時もあった。

18歳の時に【宅建資格】を受験すると言ったら、『まだ、早い』と反対されたが、半ば強引に受験して合格した。掌返しに無茶苦茶喜んでくれた。

積水ハウスに就職内定した時も手を挙げて喜んでくれた。営業として初契約が決まった時も握手してくれた。父が喜んでくれることが嬉しかった。

2000年に『10年たったからそろそろ帰って来いよ』という言葉で積水ハウスを退職した。2004年に社長交代したが22年も一緒に仕事できた。

自社セミナーも二人で数えきれないほど行った。父の導きで私にも多くの出会いがあった。尊敬できる上司であり、師匠であった。

今となっては父に喜んでもらいたい一心で仕事をしていたように思う。私の人生にはいつも父が背中越しに見守ってくれていた。感謝しかない。

おかげさまで父は不動産・建築事業者として、そして後年はシニア住生活のサポーターとして生涯現役を貫き、多くの方々のご縁に包まれた豊かな人生でした。

父に代わり生前のご厚誼に深く感謝申し上げます。

『オヤジ、いつまでも愛してるよ！あなたの子どもで良かった。有難うございました！』
合掌

代表取締役

(グループ統括責任者)

栗城 健



2017年 社員旅行で大阪へ…

《父の思い出》

取締役営業推進室長 栗城貴宗

2018年4月入社



父、栗城博が10月3日に亡くなり、父の訃報を知った多くの方々が、10月11日の通夜、12日の告別式、その後も会社や実家へおいで頂き、お悔やみのお言葉を頂きました。涙ながらに父との別れを惜しんでいる方をお見かけすると、本当に父は私たち家族だけのものではないのだと、改めて感じました。生前に父と親しくしていただいていた皆様に深く感謝申し上げます。

私が小さい頃、家の中で父の姿を見ることは殆どありませんでした。夜遅くまで働いているか、夕方から仕事仲間と飲み歩き、休みの日は仕事仲間とゴルフといった具合でした。当時はまだ珍しかった海外旅行にも、仕事仲間とよく行っていたようです。家の中には韓国、中国、香港、台湾、アメリカ統治下の沖縄等々から持ち帰ったお土産の彫刻や人形がどっさり。たまに家にいてもお客様と麻雀。よく遊び歩いていましたが、仕事と無関係な遊びはしない人だったので、今、改めて考えると、つくづく仕事熱心な人だったのだなと感心します。

また、よく本を読む人でした。小さい頃に見た本棚にはビジネス書に交じって、三浦綾子「華麗なる一族」、山岡荘八「徳川家康」、遠藤周作「ヘチマくん」等の小説の本がかなり入っていたのを覚えています。

父の実家が料亭だったので、父は料理が得意でした。田舎料理が得意でしたが、小学生の時急に思い立って韓国のジャージャー麺を作って食べさせてくれましたが、韓国料理など食べた事の無い私にはカルチャーショックでした。

また、不思議と怒られた記憶はありません。私が高級ウィスキーの瓶を落として割ってしまったときも、全く怒らず、「いい匂いだ」と言い、すぐ「もう一本持ってきてなさい」と言います。恐々と「また落としたらどうする？」と聞いたところ「気を付ければ、同じ失敗はしないものだよ」と言って笑っていました。



昭和43年（父33歳、貴宗3歳）
経営していた会社の社員旅行で…

《さようなら‘‘じじ’‘》

取締役専務 田代 陽子



葬儀のときにお配りした会長の私の戦後60年を読み返す。涙がとめどなく流れてくる。そして、色々な事が走馬灯のようにぐるぐると思い出させる。

JRCは会長と一緒に事務所開設の準備から携わった。昭和60年5月14日に登記がなされ、6月25日に宅建業の免許がおりた。

電話番と経理の仕事を任されたが名も知らぬ会社にかかってくる電話は少なく、経理といっても入金があるわけじゃなし、支払のみの計上で、大して忙しいものではない…スタートは厳しいものだった。

徐々に会社は盛り上がり活気づいていた。私も事務だけでなく営業も任された。段々と仕事も楽しくなり、活躍することが増えて、達成感という言葉が嬉しく思えるようになった。

創業時は子供も小さく、幼稚園から帰ってくる時間までのパートとして働いた。（時給はホ

ント安かった。）下の子が1年生になった頃から、フルタイム働くことになったので、土・日の我が家は父子家庭となっていた…（笑）

会長の発想力は凄く、次々と戦略を考える人だったから、付いて行くのが大変な時もあったし、気に入らないと私を叱ることもあったが半面とても大事にしてくれた。

義兄（姉の恭子の夫）でもあるから、仕事だけでなく私生活も家族ぐるみ。いつも一緒に旅行をしたり行動を共にした。兄弟の中では一番仲良しだ。

私の子供達は、伯父である会長を『じじ』伯母である恭子を『ばば』と呼ぶ。健社長を『たけし兄ちゃん』と今でも呼んでいる…。

ばばが亡くなり、主人が亡くなり、じじが亡くなり、とてもとても寂しいです。

でも子供達と孫、そして健と嫁の郁子、子の愛花と15人の家族が健在している。

15人みんなで集まるとき、私は、シ・ア・ワ・セ！！

《27年のとき》

取締役常務執行役員
木本史晴

1995年4月入社



栗城会長には、27年間という「とき」を社内で過ごしました。

平成7年3月、社員募集の看板を見て連絡し、会長と田代の入社面談のうえ4月からJRCの社員になりました。

当時の不動産の社員募集要項には25歳以上が多く、実際他所では年齢を理由に面接を断られましたので、19歳の私を受け入れてくれて今日に至っていることを思うと本当に感謝の言葉しかありません。

4月入社と言っても最初は2か月間アルバイト、6月に社員になるも3か月は試用期間。9月にやっと正式社員になった。最初の仕事は物件情報をパソコンで入力。当時は電話に出ると会長に「一人前に

なるまで電話に出るな、お客様に失礼だ」と怒られた。

社内にスタッフが居ない時に電話が架かってきた時、出ないでいると「何で電話に出ないんだ」と怒られた。

こんな当たり前のことが分からない19歳だったが、優しく、そして厳しく厳しく社会人としての基本から不動産業という仕事の全てを業務を通じて教えてもらった。

「不動産の仕事は面白い。不動産仲介は紹介手数料だから仕入れ原価が必要ないんだ」と熱く語っていたその言葉は今も私の中にあります。そして私も不動産の仕事は面白く、本当に好きになりました。

誕生月が同じ9月なので、ちょうど40歳年上の先輩であり、27年間で仕事以外の事もたくさん教えてもらいました。

これからは会長が造ったJRCを更に魅力的な会社にしてきたいと思う。

《感謝！！！！》

執行役員営業部部長
木村幸美

2003年2月入社



「君が今度入社する木村君？」入社1ヶ月前にJRCの忘年会で初めて会長にご挨拶させていただいた際に言われた言葉でした。

当時の会長は黒革のベストとおしゃれなネクタイがトレードマークで常に煙草をくゆらせながら、仕事をしてました。

「お客様の為にならないことはしない…」とても強い信念を基にJRCを立ち上げ、「業界の慣習を変えるよりも、お客様に知識を得ていただいた方がトラブルを回避できる！」と、セミナーを開催していました。

当時の私はセミナーの資料印刷や開催の準備、同行をさせていただいておりました。セミナー終了後、事務所に戻る車中で会長から

「ダメ出しをしてくれ…」と、毎回必ず仰るので、自分なりの感想や内容に対する解釈についてお話しをさせていただくと、セミナーに取り入れてくださることもあり、嬉しく思う事が多くありました。

資料の差し替えも多く（グチではありません（笑））セミナーの準備は前日や当日になることもザラでしたが、ギリギリまで参加者様の事を考えていないと出来ない事ですし、そんな会長のことを心から尊敬しています。

仕事も遊びも大真面目。貫禄がありながらも優しい笑顔で「一緒に頑張ろう！」といつも声を掛け続けてくださり、応援をしてくれました。

会長には仕事のこと以外にも多くのことを学ばせていただきました。会長のように常に情熱を持ってチャレンジを続けていけるようになりたいです。

会長、ありがとうございました！！

《栗城会長 ありがとうございます》

シニア住生活

サポート事業部 部長

渡辺 真理

2020年11月入社



超高齢化社会を迎えた私たちは人生の終わりの備えだけでなく、人生の最終段階をどう生きるかが大切だ。

2年前、自らの経験を元にシニア事業部を立ち上げ、常にお客様と向き合ってきた弊社会長の栗城が87歳で急逝した。

8月までは週二回のリハビリ以外、手押しカートで元気に出勤。パソコンで調べたり原稿を書き、Zoom会議や高齢者ホームの見学にも同行。床下を腹ばいになって（驚!!）覗き込み、家の査定までこなす仕事大好き、生涯現役のスーパーおじいちゃんだった。

自身の老いを実験台として我々に教えてくれた。例えば介護保険を使って自宅トイレや浴室に手すりを付けたときも、「渡辺さん。私は右利きだからトレイの手すりが右側だとしりしが拭き難かった」とか、「真っ白な浴室に白い手すりは、高齢者には見えづらい」

など数えきれない。

また、セミナーのテキスト作りでも何十回も書き直したり、順番を入れ替えたり、私の心の中は「もういいじゃん」と何度思ったことか（すみません!）。参加者の方が少しでも分かりやすいようにページ番号を大きくするなど高齢者でないと気付かない小さなことまで修正指示をしてくれた。

「後悔しない高齢者ホームの探し方」「家族信託」セミナーでは、健社長と二人三脚で延べ700人以上の方に講演。終了後の個別相談では、その人に寄り添い親身に相談に乗っていた。参加者の方も自分と同年代あるいは年上の会長を励みにしていたようで、その後もさまざまな相談で来社していただき「高齢者の方のよろず相談所」だった。

こんなに早く亡くなるなんて、会長本人が一番無念であったと思う。

経営者としての鋭い洞察力と先見の明、とことんこだわるが、いさぎよさもあり、好奇心が強く仕事好き。人間が好きで自身が人間味に溢れ、最後まで「生涯現役」を我々に見せてくれた。何よりも、18年前に事業承継を終えていたことは私が言うのもおこがましいのですが「会長あつぱれ!!」。

《現役》

執行役員建築部部長 陳 萌

2004年8月入社



弊社の会長が10月3日87歳で亡くなりました。

葬儀は社葬で行われ、お通夜と告別式の二日間、私は会場の受付を担当させて頂きました。

会長のお人柄もあり、コロナ禍とは思えない程、多くの会葬者数でした。同業者の方をはじめ、商工会の仲間達、商店会の方々、ロータリークラブの仲間達、不動産・建築の関連業者様JRCに居た社員、お知り合い、ご親族等々、本当にたくさんの方にお越し頂きました。そして盛岡、静岡、長野、広島など、遠方からいらっしゃった方もおられました。これだけの方たちに会葬いただき、社員として幸せだなと感じました。

自分が入社した時には既に会長でしたので、社長時代のことは知らないのですが、田代や木本から聞いた裏話ですと、怒ると相当怖かったらしく、その頃からJRCに居なくて良かったなと思いました（笑）

入社して18年間が経ちましたが、日本の社会経験のない外国籍の私ですから、失敗したことはたくさんありました。それでも、記憶の中で会長から怒られたことは何回かありましたが、恨んだことは一度もなく、変えて会長の情熱と親切さが覚ええました。年齢差のせいか分かりませんが、これも相性なのかもしれないですね。時々、二人で飲みに行ったりもしていました。そこで、創業当時の事や人生にあった出来事、事業を失敗してしまった事で借金を返し、信用を取り戻すなど、貴重な経験も教えてくれました。ジョークを交えて話してくれたので、とても楽しく大事な事を教わりました。

私にとって会長は、人生・そして社会の先生でもあります。会長が亡くなる一ヶ月前に、通勤に車いすを使う可能性があるとのことで、会社の入口前を階段からスロープにしました。残念ながらあまり使わないうちに、体調を崩して入院してしまい、そして、永遠のお別れとなりました。喪主の栗城がご挨拶の際に言った通り、会長は人生現役を貫いた人でした。

大好きな会長とお別れしたくないですが、最後に会長にお伝えしたいのは、お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。

《心熱く…》

建築部 工務課 課長代理 大橋 幸一

2010年1月入社



12年前のJRC入社当時、栗城会長から大和市民祭りの実行委員長なので写真をとって欲しいと依頼がありました。自分は大和で生まれ育ち小さいころから市民祭りを楽しんでいたの、大和市長の横で一緒にテープカットをする栗城会長に驚いたのを今でもはっきり覚えています。

私は、JRC入社前は工務店で働き独立し大工職人として働いていた為、職人の世界しか知らず、会社組織で働くことに悩んでいた時期、よく夕飯に誘ってくれてアドバイスと励ましの言葉をかけてもらいました。会長と話をする心が燃え上がり仕事が楽しくできたのを懐かしく思います。

今振り返ると恥ずかしい限りですが 栗城会長の自宅で夕飯をご馳走になった際は、『JRCはこうした方がもっと良くなる』と酔っ払いながら熱く語る自分を栗城会長はずっと笑顔で聞いてくれました。

《頑張ります！》

建築部工務課 清水 真悟

2022年8月入社



始めまして。8月1日付けでJRCへ入社し、建築部に配属されました清水真悟と申します。宜しくお願い致します。

私のご紹介をさせていただく前に父でもある会長について少しお話をさせていただきます。父は10月3日に亡くなりました。私が入社した頃から少しずつ体調を壊し、仕事の成果をあまり見せる事が出来ないままお別れとなってしまった事が凄く残念です。

8月上旬に母の古希の誕生日を鎌倉で一緒にお祝いした際は「来年はお父さんの米寿をみんなでお祝いしよう！」と話し、元気な姿を見ていただけない思い出すたび肩を落とす日々が続いています。私には0歳と2歳の娘がおりますが、じいじにたくさん遊んでもらい、娘達もじいじが大好きだったのでこれからの成長をもっと見て欲しかったです。

『一流の人は、本気で怒る』と言われていきます。私も怒鳴られたことはたくさんあります。優しいだけでなく、すべてに本気で取り組む姿勢を学ばせていただきました。

☆醒めてたら見えないものがある☆ 栗城会長の生き方を見ていると 気付かされます。いくつになっても、どんなことでもいいから何かに熱くなっている自分でいたいと思います。『JRCみんなの応援団長でいたい』と、居酒屋で一緒に飲ませて頂いた際に、笑顔で話しておられていたのが印象的でした。

栗城会長が創業したJRCで僕たちは笑顔で生活ができています。JRCみんなの事を一番に考えてくださって、お仕事をさせていただき、お世話になり、とても幸せでした。生意気にもかわいがっていただきました。栗城会長の笑顔が忘れられません。どうぞ、安らかに眠りください。



喜寿のお祝い会にて撮影



2010年大和市民祭りにて撮影

「2人の娘の為に更に仕事を頑張れ」という父の言葉を旨にJRCでの仕事を頑張っていきたいと思っています。

私はこれまで、家具職人、大工職人、新築工事の現場管理、リフォーム工事など建築業に幅広く携わってまいりました。

家具の仕事に就くきっかけは、椅子が好きだったからです。最初は店舗家具から「木取り」と呼ばれる原木から角材や板材などを製材し、少しずつ加工機も使えるようになりました。この経験は、店舗のカウンター製作やオーダー家具作り等にも活かされています。

同じ職人でも家具と家では扱う木材の大きさ・種類・重さも異なり、最初は全身が筋肉痛になりましたが大きな物を扱う分、やりがいも大きいです。また、リフォーム工事では一から造り上げる新築と異なり、解体しながらどのように造られていたのかを見て学びそこにまた新しい空間を造るというところにやりがいを感じています。



2年前に行った箱根旅行

もしもの時のために 高齢者と ご家族が準備しておくべきこと

10月3日に亡くなった(株)JRC・はるかぜ(株)会長 栗城博は、亡くなる1か月前まで、高齢者の介護や相続問題等に取り組んでおりました。JRCとはるかぜは会長の遺志を継ぎ、引き続き高齢者の方々のサポートに努めてまいります。

今回は、高齢者の皆様とご家族が、万一の場合に備えて、知識を深めておくとともに、ご準備をされておくべき事柄についてご紹介します。



(株)JRC、はるかぜ(株)
会長 故 栗城 博

介護保険と介護認定について



介護保険サービスを利用するためには、まず、「介護サービスなどを利用する必要がある人」とであると、市区町村に認定してもらう必要があります。その認定を介護認定と言います。

介護認定は、身体機能や認知機能の障害の程度により、要支援1～2・要介護1～5の7段階分かれています。

介護認定は受けておくべき

会長は亡くなる前に介護区分変更の申請をしていましたが、要介護4の認定が決まったのは亡くなった後でした。しかしながら、腰痛が出始めたころに要介護1の認定を受けていたので、介護サポートや介護用品レンタルをかなり利用するようになってから、制度の恩恵をかなり受けることができました。



高齢者ホームについて



高齢者ホームには、入居者の身体機能や認知機能の状態により、入居できる施設が分かれています。具体的には、特別養護老人ホーム（特養）、介護老人保健施設（老健）、有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅、グループホーム、ケアハウス等、様々な施設があり、さらに有料老人ホームは健康型・介護付き・看護付きに分かれています。

高齢者ホームの下調べをしましょう

将来、高齢者ホームに入ることになったとしたら、様々な高齢者施設の中からご自身の介護度、経済状態に応じて、自分に合った施設を選ばなければなりません。その時になって慌てないように、高齢者施設にはどんなものがあるのか、事前に知識を得ておくことをお勧めします。



相続・遺言について



普通方式の遺言書には、「自筆証書遺言」「公正証書遺言」「秘密証書遺言」の3種類があります。自筆証書遺言は、本文・日付・署名を自筆で記入し押印するだけで有効なので作成が容易です。公正証書遺言は公証人役場で作成・保管するので、文書内容が正確ですし、紛失の心配がありません。秘密証書遺言は公証人役場で保管するため、紛失の心配はありませんが、内容がチェックされていないので不備があれば無効になる危険があります。

遺言書は残しておくべき

いくらご家族の仲が良くても、イザ相続になると、もめる場合があります。ご自身の死後にご家族の負担にならないように、遺言書は残しておくべきだと思います。



財産目録について

財産目録とは、亡くなった方の財産を記した一覧表のことです。預貯金の残額や不動産の評価額は変動しますので、亡くなった時点を基準に作成します。

資産の確認

不動産を多くお持ちの方の場合、農地の住所・地番、賃貸物件の契約相手や管理会社等について、ご家族はご存じないと思います。このため、一覧を作成して権利証や契約書等と一緒に保管しておくといいでしょう。生命・火災保険、銀行口座、株式や投資信託、年金も同様です。



家族信託について

家族信託とは、ご自身が生きている間、あるいは亡くなった後に「こうして欲しい」と思うことを、ご家族に契約で託す制度です。契約は公正証書で作成し、不動産は信託財産として登記するので、誰に対しても信託の真正性を主張できます。



信託契約



家族信託 + 遺言 + 成年後見

家族信託は、生前事務や死後事務について、ご自身の意向をかなり広い範囲で反映させることができますが、遺言や成年後見制度と組合せて、さらに細やかな対応をすることも可能です。



JRC 相続・遺言、成年後見、家族信託のご相談は
グループ **はるかぜ(株)・行政書士事務所**

〒242-0017 大和市大和東3-9-3



046-240-6135



info@harukaze.org

将来、どんな暮らしがしたいですか？

高齢者施設と介護についての基本知識

いつか訪れる老後の住まいや暮らしを、皆様はどのくらいイメージできますか？
「まだ先の話だし…」と具体的なイメージがつかない方も、ぜひ参考になさってください。

<要介護状態の方が対象の施設>

<自立の方が対象の施設>



※認知症受入可能な施設が多い！

入居待ち期間が
比較的短い

- ①介護付有料老人ホーム
(目安：15.7万円～/月)
- ②住宅型有料老人ホーム
(目安：9.6万円～/月)
- ③グループホーム
(目安：10万円～/月)

入居待ち期間が
長い

- ④特別養護老人ホーム(特養)
(目安：8.8万円～/月)
- ⑤介護老人保健施設(老健)
(目安：7.6万円～/月)



入居待ち期間が
比較的短い

- ①サービス付高齢者住宅
(目安：15万円/月～。
敷金・礼金等が必要)
- ②健康型有料老人ホーム
(目安：12万円/月～)
- ③シニア向け分譲マンション
ほか

入居待ち期間が
長い

- ④軽費老人ホーム
(A型からC型まで)
※自立～要介護1以上の方
で条件がさまざまなのでお問
い合わせください。

※金額等はあくまでも目安です。

<在宅介護サービス>

在宅介護サービスを利用するには、介護認定を受ける必要があります。認定を受けるには、最寄りの役所や地域包括支援センターで申請を行ってください。

①自宅訪問サービス

ホームヘルプ・訪問リハビリテーション等

③短期入所サービス

ショートステイ等

②通所サービス

デイサービス・デイケア等

④地域密着型サービス

グループホーム等



今年最後!! 高齢者ホームの紹介と今話題の“家族信託”セミナー

①『後悔しない 高齢者ホームの探し方』

日時：11月27日(日)

13:30～15:30

場所：大和市生涯学習センター
定員20人

② 相続対策に有利な家族信託

●家族の事情や状況に応じた対策や手順

日時：12月3日(土)

13:30～15:30

場所：JRC セミナールーム
定員15人

家族信託：認知症などによる財産の凍結
を防ぎ、家族が財産管理できる制度



講師：栗城 健

●どちらも受講後に個別相談承ります！

◆料金の「高い・安い」だけでなく、立地、介護、医療などの条件に合った施設の選び方やこれからの資産管理のお話をします。
これまで450人以上の方が参加された人気のセミナーと、気になる「家族信託」の新規セミナーです。

ご予約 電話 046-261-6101 メール info@jrc6101.com

～高齢者施設等 ご相談の流れ～

ご相談・ヒアリング：当社事務所・ご自宅・その他ご希望の場所で



調査：施設入所か在宅介護か、補助金の有無、ご希望に合った生活ができるか

ご提案：調査に基づき、皆様の条件に合ったプランをご提案

施設入所の場合は…

施設ご案内：

スタッフが同行し、費用や設備等の内容を確認

契約手続き

ご入所：

入所後もご不明な点がございましたらフォローいたします



在宅介護の場合は…

生活に必要なご提案：

訪問介護や、介護リフォームなどのご提案

業者等の手配

生活の支援：

補助金等の申請のお手伝い



シニア住生活サポート事業部では…

- ①高齢者ホーム・住宅の紹介、見学同行、入居のお手伝い
- ②住み替えのご相談
- ③所有不動産の調査・査定
- ④リフォーム、住宅改修
- ⑤各手続きサービスのお手伝い（成年後見人、家族信託、相続、財産管理）
- ⑥片付け、ハウスクリーニングなど

「住まいの将来」のお悩みもお気軽にご相談ください。

**【介護保険適用】
住宅改修工事**

これまでのJRCのリフォーム工事のノウハウに
【申請から工事まで】シニア住生活サポート事業部にお任せ下さい！



シニア住生活
サポート事業部
渡辺真理

10月11日・12日に執り行われた
創業者 取締役会長 栗城博 社葬に際し、
多くの方にご会葬賜り心よりお礼申し上げます。

故人の想いを胸に、これからも精進して参ります。
引き続きご指導ご鞭撻賜ります様、
よろしくお願い申し上げます。

株式会社ジェー・アール・シー 社員一同
はるかぜ株式会社 //

大和市大和東三丁目9番3号
TEL046-261-6101